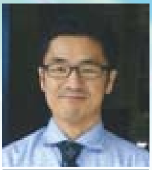
# 原因不明の消化器症状の治療効果を予測する



大学院医学薬学研究部(医学)
助教　三原 弘

## 研究分野　Research area

**消化器内科**

研究のキーワード　原因不明の腹痛,治療予測マーカー,ATP,アラキドン酸

## 研究内容　Research content

器質的な異常を認めないにもかかわらず消化器症状があり生活の質が障害される日本人は 20-30%存在しているが、治療効果は、10〜50%であり、治療予測マーカーは存在しない。内臓痛を介在すると報告されているアデノシン三リン酸(ATP)と、微小炎症を介在するアラキドン酸代謝産物を消化管上皮から得た生検標本で測定することで治療効果予測できる可能性がある。

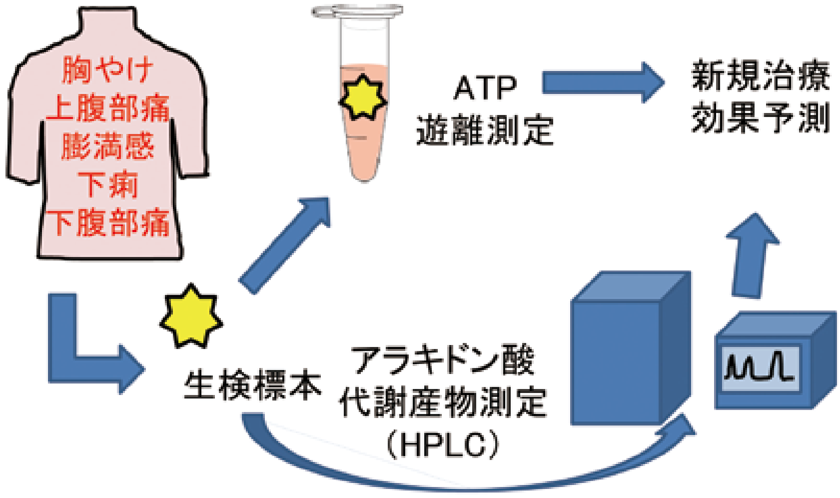
## 研究のポイント　Research point

・腹部症状には、酸や機械刺激に対する過敏性、ATP など放出、アラキドン酸代謝物、脳の活動異常が関与している。
・小動物では、消化管上皮が伸展を受けると受容体が活性化し、ATP が放出され、脳で刺激を感じる。
・ATP とアラキドン酸代謝物の濃度測定系は確立している。
・研究対象は、国際的な診断基準で診断可能である。
出口戦略は、治療効果予測である。

## 産学連携への取組、期待

共同研究実績
・平成 23 年〜28 年生理学研究所共同研究

特許
・なし

アピール
・高頻度疾患群に対する新規治療予測マーカーの探索となりうる。

## 研究 REPORT